

現場の声を 政策・施策に反映

久留米市男女平等推進センターは、6年間にも及び設置検討委員会における議論を経て、平成13年に生涯学習、人権啓発、消費生活の各センターとともに、複合施設「えーるピア久留米」内に開館しました。事業の中心としているのは、1. 男女平等を推進し、女性の能力を引き出す事業（講座など）、2. DVをはじめとした女性・男性問題の相談事業、3. 関連図書の収集や情報提供の3つです。

「どの事業においても、職員が高い専門性を持つことを重視しています。そのため講座の内容を決めるにあたっては、現在、もっとも必要とされている内容の講座を実施できるよう、専門知識を持った事業コーディネーターが選任されています。相談事業では、DV等の深刻な事例の場合でも、相談者が安心して相談に来ていただけるように、被害者・加害者への対応方法は全職員に徹底しています」と所長の内山孝子さん。「また、センターの事業から見えた課題を久留米市の男女平等施策に反映・展開させることを常に心がけている」ともいいます。

女性問題・男性問題への 気づきや女性の 能力を引き出す講座

センターの中心事業のひとつとなっている講座には、男女共同参画を推進するのにもっとも基礎的な知識を学ぶ講座、女性の自立支援のためのスキルアップ講座、起業・経営相談会、女性の潜在的な能力を引き出すためのエンパワメント講座などがあります。これら講座のプランニングや実施の中心になっているのが、事業コーディネーターの甲木京子さんです。講座には、センター独自のもの、久留米市の他の部局や、久留米公共職業安定所、福岡県筑後労働福祉事務所、久留米商工会議所、21世紀職業財団などの団体との連携で行うものとの2つのパターンがあり、どの講座も非常に好評です。

平成13年度の場合、「再就職のためのパソコン技術講習会」と「働きたい女性のためのパソコン技術講習会」の受講生の追跡アンケートを実施したところ、定員各20名、合計40名中22名（アンケート回答は28名）が、就職や独立・起業しており、実践的な自立支援として高く評価されています。

雇用労働者だけでなく、 事業主を対象とした セミナーも開催

このほかセンターでは、雇用労働者だけでなく、事業主や人事担当者を対象とした男女共同参画のための職場環境整備のための講座も開催しています。「男女共同参画については、働く側だけがそうした意識を持っていてもなかなか推進することはむずかしい、事業主が意識を持つことで職場が変わり、社会全体の流れも変わっていくと思います」と内山所長。「また中学校や高校などでも講座の要望があります。これからも要望があればセンター外のさまざまな場所で、積極的に講座を開催していきたいと考えています」。



左/所長の内山孝子さん
右/事業コーディネーターの甲木京子さん



「こころとからだのリフレッシュメントクラス」でのダンスによる自己表現



男女平等推進センターの図書・情報ステーション



「えーるピア」は久留米市の多目的施設です

●施設概要

図書・情報ステーション、相談室、グループ相談室、作業室、能力開発室などセンター施設のほか、音楽室、ダンススタジオ、体育館、視聴覚ホール、一時保育室などの共用施設があり、多目的に利用できる。

●事業例

「こころとからだのリフレッシュメントクラス」「就業支援」「起業支援セミナー」など多彩な講座を開講。ほかに、市民グループの活動支援事業、各種相談、調査研究グループや個人への事業費補助、自主活動のネットワークづくり促進の支援など。

●住所&交通アクセス

福岡県久留米市諏訪野町1830-6
西鉄久留米駅から徒歩約10分
<http://www.elpia.kurume.fukuoka.jp>

●問い合わせ

電話 0942-30-7800
FAX 0942-30-7811
danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp



フィールドワークですぐに役立つ 地域の子育ての情報を発信

ヴァン・ドゥ・ネット

田町菜穂子 さん 福岡県久留米市

田町さんのこれまで

福岡市で出版社勤務。

結婚を機に退職し、久留米市に転居。

第1子の産後1年目に、子育て仲間「パンの会」を始める。

第2子の出産に際し、久留米の地域の育児情報が無いことに気づく。

ヴァン・ドゥ・ネットを立ち上げる。

久留米市子育て支援基金の助成金を得て、地域の子育て情報を集めた『Welcome baby』を出版。

男女平等推進センターの調査研究の企画公募に応募し、『はたらくおんなのきもち』『はたらくおとこのきもち』を発行。

子育て仲間で始めた「パンの会」

ヴァン・ドゥ・ネット代表・田町菜穂子さんが、地域でのつきあいの重要性を切実に感じ始めたのは、1人目のお子さんを出産してからのこと。「久留米には結婚後転居してきましたし、出産まではフリーで少し仕事もしていましたので、それなりに人づきあいもありました。でもいざ出産して仕事もやめちゃうと、社会とのつきあいがなくなってしまって、いろんな悩みを相談できる子育て仲間が欲しいと切実に思いました」

公園にベビーカーを押して行き、そこで1人、2人と仲間を増やしていき、お子さんが10か月になった時に、仲間7人と「パンの会」を始めました。「月2回、おいしいパンを作りながら、育児や家庭のこと、愚痴も相談もいろいろ。この会は今も月1回のペースで続いています」と田町さん。

自分の出産で知った「地域の情報が無い！」

田町さんは、一人目のお子さんを帝王切開で出産。二人目を妊娠した時に、再度の帝王切開は避けたいという強い思いで、久留米で助産士さんを探そうとしました。「でも久留米の助産士さんの事情が全くわからないんです。その時に、きっと情報がないことにとまどっているお母さんが多いのではないかという思いから、ヴァン・ドゥ・ネットを立ち上げました」

結婚前、福岡の出版社で4年間情報誌の制作に携わっていたこともあり、こうした調査に必要な人の確保や、仕掛け方のノウハウを持っていた田町さんは、さっそく行動を開始します。「その時、市の広報で子育て支援の活動に助成金があることを知りました。その助成金を受けて1冊目の『Welcome baby』を出版しました」

『Welcome baby』は1000冊を印刷。地元の書店に直販するというスタイルで販売し、これをきっかけにヴァン・ドゥ・ネットはメンバーが増え、約20名前後が活動する

ようになりました。

もっとさまざまなテーマで情報発信を目指す

田町さんは、『Welcome baby』発行後、さらに調査・情報発信の企画を続けていきます。「子どもとの関係をうまく保ちながら、みんながやりたいことを続けて欲しいし、また見つけることにも協力できたら素敵です。ヴァン・ドゥ・ネットが、そうしたきっかけづくりのお手伝いができたらいいなと思っています」

その言葉通り、2冊目として女性の働き方や生き方をテーマにした『はたらくおんなのきもち』を発行、さらに第2弾として、『はたらくおとこのきもち』を発行しました。自分たちのネットワークを駆使して、フィールドワークでコツコツと集めた調査結果は、久留米の地域に密着した情報としてとても注目されています。



女性の働き方や生き方がテーマになった『はたらくおんなのきもち』